

■鉄眼道光 黄檗宗の禅僧。窮民救済のため、「大蔵経」開版に命を賭け、その印刷は現在もお続けられる。

てつげんどうこう

寛永禁書令・1630＝ 肥後国益城で、浄土真宗僧佐伯浄信の子に生まれる。

徳川秀忠没・1632＝ 2歳：

母も妙観と名乗る信者という環境に育ち、

東照宮社殿・1636＝ 6歳：父から「観無量寿経」を教えられる。

鎖国令Ⅴ・・・1639＝ 9歳：

家光鎖国完成1641＝10歳：

初の高札・・・1642＝12歳：海雲法師に就いて得度・出家、浄土真宗の僧となり、

・・・・・・・1646＝16歳：豊前小倉永昌寺の西吟上人のもとで修養、

市中諸法度・1648＝18歳：

御蔭参流行・1650＝20歳：母が死去。

徳川家光没・1651＝21歳：

本願寺の能化職に就くほどで徳望も高かったが、禅門との関わりも深く、やがて浄土宗門から弾劾を受けることになる西吟上人の影響で、禅門に開眼すると、師の教えに飽き足らなくなり、

隠元黄檗宗・1654＝24歳：中国から黄檗宗の隠元隆琦が来日したのを聞くと、

・・・・・・・1655＝25歳：長崎に馳せ参じて、東明寺で隠元入門、師が摂津の普門寺に移るのにも従って修禅、

明暦の大火・1657＝27歳：

江戸城再建・1659＝29歳：隠元が開いた黄檗山万福寺にも移住し、その高弟の中国人禅僧に師事して修行を続け、

清帝国始・・・1661＝31歳：白杵の多福寺での臨済禅の講座に参加した際、寶洲と如節と邂逅、

・・・・・・・1662＝32歳：母の十三回忌法要のため帰郷し、村民の困窮ぶりを見て、救済事業を志し、

殉死禁止・・・1663＝33歳：*「大蔵経」を購入しようにも資金が足りず、ついにその開刻を計決意、

各地に招かれて經典の講座を開きながら講演力を身に付け、

酒井忠清大老1666＝36歳：

足利学校再建1668＝38歳：*大坂で「大乘起信論」を講じた際に大願宣言、即刻妙宇道尼が一千両を献金したのをはじめ、

ジャクシャインの乱 1669＝39歳：賛同した隠元から、「大蔵経」そのものと作業場所を提供され、各地を行脚するうち、

・・・・・・・1670＝40歳：摂津国難波村に招かれて、慈雲山瑞竜寺(鉄眼寺)を中興開山となるなど、多くの支援者も得、

寶洲と如節とともに開刻を続け、

三井越後屋・1673＝43歳：この年、隠元が死去。

・・・・・・・1674＝44歳：父の重病を聞いて帰郷するも死去、招かれて講義した肥後国熊本藩主細網利が大金を寄付してくれ、

談林派俳諧・1675＝45歳：豊後森藩主に招かれた際には、一向宗の無頼漢に脅迫されて避難などするが、禅の精進も怠らず、

・・・・・・・1676＝46歳：隠元の高弟木庵から印可を受けるに至った後、

藤十郎登場・1678＝48歳：「大蔵経」開刻が一通りできたので、初版一部を後水尾上皇に奉呈。なお手を加えて、

徳川綱吉將軍1680＝50歳：

護国寺・・・1681＝51歳：*「大蔵経」6956巻の版木が完成した。現在もお鉄眼版として印刷が続けられている。

好色一代男・1682＝52歳：*大坂で大飢饉が起こり、瑞竜寺を開放するなど難民救済に尽力するうち、病気で没した。